

2017年9月 ヘルパー研修報告

2017年9月13日(水) 9:30-11:30 京都市消防防災センターにて
参加 ヘルパー 25名 職員 14名 進行・記録 藤堂

今回は災害・防災について学びました。

20人×2グループに分かれて

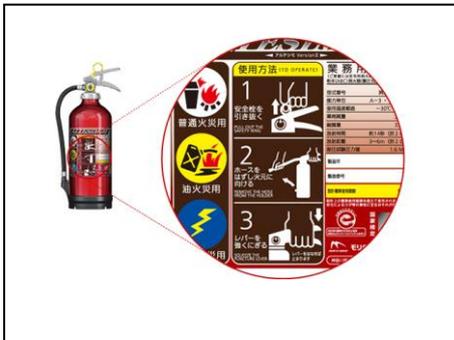
- ・消火体験
- ・避難体験 (ホテル内をイメージした避難)
- ・地震体験
- ・映像 (京都の災害の歴史)
- ・4Dシアター(水害)

の4つの体験をしました。

消火器体験

消火器には蓄圧式消火器と加圧式消火器があります。

すべての消火器は、ラベルにわかりやすいイラストで使い方が説明されています。また、傷やへこみがないかも確認が必要です。



↑消火器の使用方法や種類を聞きました。

<種類の説明>

- A 火災 (普通火災) 木材・紙・衣類などが燃える火災
- B 火災 (油火災) 石油やガソリン (可燃性液体)、油脂類などが燃える火災
- C 火災 (電気火災) 電気設備、電気器具など感電の恐れのある電気施設を含む火災

消火器の使い方～皆さんは使われたことはありますか？訓練されたことはありますか？～

STEP ①



レバーを固定しているピンに指をかけます。（このとき、消火器を地面に置くと安定します）

STEP ②



ピンを垂直方向にスパッと抜き取ります。（ピンを抜いただけでは、消火薬剤は出ないのでご安心ください）

STEP ③



ノズルを火元に向け、レバーを握ると消火薬剤が噴出します。（火は手前から掃くように消していくのがコツです）

* 画像は消火器具を扱う企業の H.P より抜粋



↑ 避難経路の説明を受けています。

避難体験

ホテル内における火災を想定した避難訓練を行いました。

ハンカチ片手に低い姿勢で避難開始です。

しかし、暗闇と白い煙で前が全く見えず、頼りになるのはお互いの声かけと誘導灯とひとつの懐中電灯でした。

↓ 協力して「消火成功」しました。



人は煙の中では判断力が落ちてしまい、方向感覚もわからなくなります。

事前の避難経路確認が大切であることがわかりました。

またスタッフの方の説明で、避難扉は「押す」のみ。「引く」扉はありませんと強調されていました。

映像体験

京都の災害の歴史についての映像でした。

最近では 2013 年 9 月の台風 18 号により京都市内も水害にあったことが記憶に新しいところです。

地震体験

震度 2～震度 7 の横揺れと自宅内で気をつけることを 5～6 人のグループで体験しました。

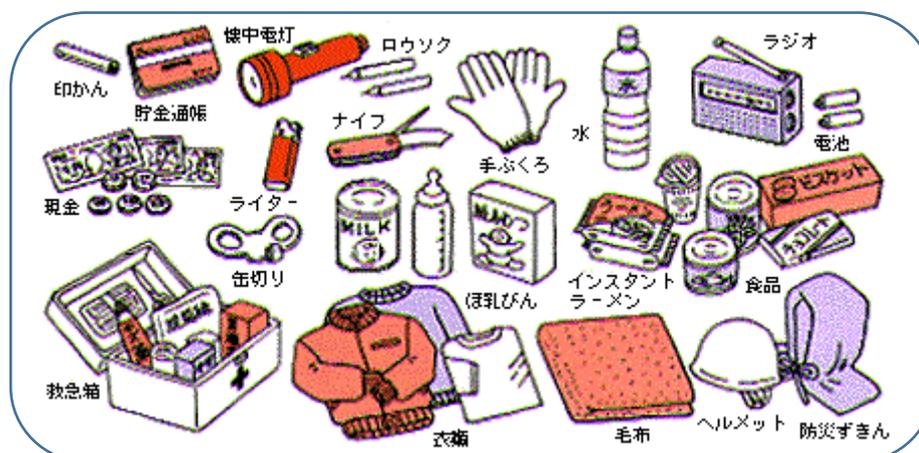
- 1 地震が来たら机の下に身や頭だけでも隠す。またはクッションなどで頭を保護する。
- 2 ストープ等の火の元を消す。
- 3 入り口を確保する。(ドアが地震でゆがんで開かなくなることがあります。)

以上を役割分担をして行いました。



阪神淡路大震災時は暖房器具の火の元や電気関係から火災が発生したと言われています。避難のため家を出るときはブレーカーを落とすこととガスの元栓を閉めることも大切です。今は「地震活動期」に入っており、南海トラフ大地震が起こる可能性が言われています。防災グッズ(水・食料品備蓄・懐中電灯など)を揃えましょう。

とのお話がありました。



<参考> ↑総務省消防庁 H.P より抜粋

4Dシアター (水害)

過去の水害様子と地下街における水害のシュミレーション映像が流れました。

階段から水が一気に流れ落ちてきてあっという間に水が流れ込んできます。

また地上へ上がるにも、水が流れる階段を上るのは大変困難な状況であることがわかりました。



その後、浸水 10 センチ～40 センチでの扉の開け具合を体験しました。

10～20 センチは力を入れると開けられますが
30～40 センチになると男女ともに頑張って押しても
びくともしないまたは少し動くぐらいで、
水圧の強さがわかりました。



以上の体験を通して、ヘルパー皆さんに災害について意識を高めてもらえました。

災害はいつやってくるかわかりません。

支援中であるご利用者と自分の身をどう守っていくのか、考えることはまだまだ出てきます。今回はこれからの課題に向けてほんの入り口ではありますが、正しいことを知ることができました。

<参加者の声 (一部) >

- ・煙の中では先が見えにくく、うまく歩くことができませんでした。
- ・全て初めてする体験でびっくりすることばかりだった。震度7の体験はとても怖かった。
- ・「怖い」という気持ちが先に来ました。
- ・支援中に災害が起きた時、どう行動すべきか考えておかないと、ご利用者も自分も守れないと思った。

次回 ヘルパー研修

10月12日(木) 9:30-11:30 北山ふれあいセンターにて

内容 「当事者の話」

講師 日本生活自立センター (JCIL) のスタッフの皆さま